

大学の世界展開力強化事業（平成27年度選定）中間評価結果

大 学 名	東京農業大学
整理番号	L-8
事 業 名	中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本事業は、東京農業大学の卒業生が約100年に渡って構築してきた中南米諸国における農業分野のネットワークを活かして、ブラジル、メキシコ及びペルーの農学系4大学との学生交流プログラムとインターンシップを実施することにより、相手国における持続的な食料生産を目指す起業家や食農・環境分野の実践的な専門家の育成を目的としている。</p> <p>事業展開は概ね順調に推移している。交流学生数は本事業実施前に比べて大幅に増えており、短期プログラムに続き長期プログラムに参加した学生がいるなど、本プログラムの意義が参加学生に浸透しているものと評価する。また、相手国で活躍する卒業生の支援によるインターンシップをはじめとして、先方の食農環境、社会や文化、言語を含めて総合的に学習が可能である点は、本事業が目指す人材育成に資する特徴的な取組であり、長年に渡り東京農業大学が積み重ねてきた教育活動や研究成果が最大限に活用されているものと判断する。今後は、学生の興味を喚起し、本事業を継続していくためにも広報活動を更に強化することと、中南米関連企業や研究機関など、学生の就職活動支援に繋がる取組が実施されることを期待する。更に、学生の危機管理に関しても、準備や配慮がなされている。引き続き、不断に相手国の最新情報を収集し、より一層、学生に対する安全面の確保と、安心して学習できる環境の確保が望まれる。</p> <p>一方、東京農業大学と相手大学との単位相互認定及び、受入学生の適切なインターンシップ先の開拓とその質の保証について、必要に応じた改善と努力が積み重ねられることを期待する。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け、積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。</p>